



社会福祉法人
京都視覚障害者支援センター

2025 年度 事業報告

【法人理念】 希望に満ちた成長への喜び

【行動指針】 働く力、よりよい生活、あなたの能力や可能性に合った

自立に向けての支援を行います

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

TEL075-333-0171 FAX075-333-0172

Email:info@kyo-ssc.com

目 次

【Ⅰ 2025 年度 法人概要】	1
A. 2025 年度 事業報告 総括.....	1
B. 各部門の成果と課題のポイント.....	1
C. 法人運営会議から	2
【Ⅱ 各部門別報告】	3
A. 障害者支援施設 洛西寮.....	3
B. 三療事業所.....	10
C. 障害者相談支援事業所 スマイルサポート（指定特定相談支援事業）	12
D. 点字出版施設 紫野点字社	13
E. 京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業	14
F. 法人	15
1. 事務局	15
2. 主催行事.....	17
3. 共催事業.....	18

【 I 2025 年度 法人概要 】

A. 2025 年度 事業報告 総括

2025 年度は、役員改選による新体制のもとで一歩を踏み出した一年であった。

役員報酬規程の改正やコンプライアンスの徹底といった「組織の土台作り」を推進するとともに、クレジットカード決済の導入や処遇改善加算の取得など、時代に即した業務の効率化と職員処遇の向上を図った。

また、BCP（業務継続計画）訓練の実施や権利擁護の徹底を通じ、利用者がより安全に、かつ自分らしく生活できる環境整備を推進した。一方で、施設の老朽化対策や将来を見据えた財政基盤の安定化、さらには次代を担う人材育成など、取り組むべき課題が明確となった。

加えて、今後本格化する地域移行の推進に対応するため、施設入所者の意向確認に向けた体制整備を進めるとともに、次年度の報酬改定を見据え、施設の在り方について検討を開始した。

今後は、地域との連携を一層強化し、法人の持続的発展と質の高い支援の実現に向け、職員一丸となって取り組む所存である。

B. 各部門の成果と課題のポイント

1. 障害者支援施設 洛西寮

（洛西寮施設入所、らくさい作業所）

【成果】

- ① 緊急時にも状況に応じた柔軟な対応ができた（夜間・日直）
- ② 触法行為のある利用者にも継続的に支援を行えた
- ③ ミシン作業の拡充に取り組めた
- ④ 洛西寮開所 40 周年記念事業を開催した
 - ・ オープンファシリティー（4/18）
記念講演、記念動画（後援会助成）、啓発（視覚障害者体験、利用者による作業実演）
 - ・ 春の行事（6/16）
大阪万博 「自律型ナビゲーションロボット」（AI スーツケース）を体験
 - ・ 洛西寮まつり（10/18）
大抽選会の景品を豪華にして地域へアピール（後援会助成）
 - ・ 秋の行事（11/20）
るり溪へバーベキュー（後援会助成）

【課題】

- ① 介護ニーズの高まりに応じた支援体制の強化
- ② 触法行為のある利用者への対応の継続的な検討
- ③ 点訳・縫製の担い手育成

2. らくさい治療院、美鈴治療院

【成果】

- ① らくさい治療院・美鈴治療院合わせて、定員 20 名を安定して維持
- ② 両院合わせて患者数 10,000 件を維持
- ③ 就労継続支援 B 型と三療事業とのマッチング

【課題】

- ① 施術技術向上への支援
- ② 接遇力強化への支援
- ③ 治療院内外及びスタッフの身だしなみの意識化

C. 法人運営会議から

今後 10 年の重点課題

将来にわたる安定した法人運営を堅持するため、以下の 6 項目を重要課題と位置づけ、継続的かつ慎重に検討を進める。

① 経営の健全化

現在の積立額は約 6,000 万円である。5 年以内に 1 億円に到達することを目標に掲げ、厳格な収支管理と中長期的な視点に基づく経営判断を推進する。

② 後進の育成・人事構想

次世代への円滑な事業継承を見据えた人材育成を強化する。今後は各ポストの役割と責任を再定義し、明確な人事構想として具現化する。

③ 入所利用者の確保

入所問い合わせの減少という現状を重く受け止め、施設の強みを再検証する。その上で、広報戦略や情報発信のあり方を抜本的に見直す。

④ 点字への取り組み

「点字を守り次世代につなぐ」という基本方針のもと、点字データ作成を担う専門人材の発掘および育成に注力する。

⑤ 住居基盤の整備

2027 年度の報酬改定の動向を注視しつつ、グループホーム等の居住系サービスのあり方について、多角的な視点から検討を行う。

⑥ 三療指導員の確保と養成

2028 年度末および 2029 年度末に退職者が相次ぐ見込みである。この事態に備え、早期に育成計画を策定し、人事構想を明確化する。

以上、今後の進捗や社会情勢の変化を適宜反映させながら、これらの課題を段階的に具体化していく。

【 Ⅱ 各部門別報告 】

A. 障害者支援施設 洛西寮

1. 施設入所支援

【概要】

年度初めは入所利用者 25 名からのスタートだったが、年度内の新規利用者が 1 名、退所利用者が 2 名で、期末の利用者数は 24 名となった。新規利用者は、同居していた家族が高齢になり、同居を維持していくことが難しくなったことをきっかけに、緊急的に通所から入所に変った方だが、結果として集団生活に不自由さを感じ、家族の健康状態が少し回復したこともあり、自宅へ帰ることになった。もう 1 名の退所者も令和 5 年に家族の介護状態の変化により通所から入所に変った方だが、一人暮らしの住居を探し、通所に戻り、地域移行を実現する形になった。

入所者の障害による行動特性や介護度が多様化する中、施設全体の平穏を保つことの困難さが増しているが、緊急時の柔軟な職員体制や粘り強い支援で、安心・安全な生活の維持に努めている。

【成果】

- ① 利用者緊急時の状況に沿った対応（夜間・日直）
- ② 触法行動利用者への粘り強い支援
- ③ 通所利用者の緊急時の受け皿機能（入所）
- ④ 利用者の休日の外出に対するボランティアの手配
- ⑤ 春と秋の行事、洛西寮まつりの充実
- ⑥ 他の障害者施設との連携
- ⑦ 職員への視覚障害理解と資質向上のための研修
- ⑧ 地域の視覚障害者への会場解放

【課題】

- ① 利用者の介護必要性の増加と支援・介護体制
- ② 触法行動利用者への継続的な対応と検討
- ③ 入所利用者の定員確保への更なる取り組み
- ④ 感染症拡大時や災害発生時の持続可能な体制作り
- ⑤ 利用者の状態に応じた支援必要性和日直・夜勤体制の調整

【各サービス内容】**ア. 健康管理****【概要】**

前々年度より看護師が不在となっているが、支援員が一体となって緊急の医療的な対応や通院、傷病のケア、健康相談などに取り組み、不足が出ないように体制を維持した。緊急の入院や手術時の入院などにも、家族が高齢化し対応出来ないことが多いので、家族に代わって手続きや付き添いし、入院生活が円滑に進むように昼夜を問わず対応した。

【成果】

- ① 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援
- ② 嘱託医との連携による、利用者個々の医療課題の把握とニーズに沿った支援の実施
- ③ 利用者個々の状況に合わせた、確実な服薬管理
- ④ 利用者個々の顔色や皮膚の状態、バイタル測定や観察による体調変化への気づきなど積極的な健康管理
- ⑤ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症発生時の拡大予防と収束

【課題】

- ① 感染症拡大時や災害発生時の持続可能な体制作り
- ② 感染症対策など最新情報にアプローチし、専門性に基づいた知識の習得
- ③ 利用者の健康維持に向けた、意識付けの継続と自発的行動の定着
- ④ 看護体制の整備

【実績】

- ① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(7・2月は全員)	137	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	408	洛西寮栄養士	洛西寮医務室
6月	基本健診	全員	32	鳥羽健診クリニック	洛西寮

② 通院件数

年度	通院件数
2020	260（うち介助 210）
2021	285（うち介助 224）
2022	282（うち介助 212）
2023	340（うち介助 249）
2024	313（うち介助 247）
2025	315（うち介助 272）

イ．食生活と栄養管理（衛生管理含む）

【概要】

今年度も、医師の指示に基づく療養食の提供および、個人に応じた栄養指導の実施を基本として、引き続き利用者の栄養状態の維持・改善と食生活の向上を目指し、個々の特性や体調に配慮した支援計画を推進した。

食事サービスでは、委託業者の栄養士や調理師と連携し、季節感や盛り付けに配慮した適時適温の食事提供に努めた。特に、カレーや麺類の対面配膳を拡充したほか、誕生日にはリクエストメニューを工夫して提供し、利用者満足度の向上につなげた。一方で、歯科通院により義歯の不具合や歯周病が確認され、普通食が食べにくい方が増加した。そこで、個々の歯の状態に合わせて、きざみ食やスプーンの使用などで食べにくさを解消した。その結果、全量摂取が可能となり、満足度の向上につながった。

また、給食委員会を通じて委託業者との緊密な情報共有を行い、プロポーザル以降の積極的な改善提案を実務に反映させるとともに、衛生面での注意喚起を行った。春・秋の行事や新年会での行事食、新しい食器の導入による食堂環境の整備、さらにはインスタグラムでの彩り豊かな昼食の発信など、多角的なアプローチで食を通じた支援と広報を充実させた。

【成果】

① 衛生管理・感染症対策の徹底

- ・ コロナ禍の経験を活かした対応＝罹患者へのディスポーザブル食器使用や次亜塩素酸消毒を徹底し、二次感染を防止
- ・ 基準の周知＝HACCPに基づいた感染症対策マニュアルおよび殺菌基準を職員間で周知徹底
- ・ 環境整備＝食堂テーブルへのパーテーション設置による飛沫感染予防

② 食事提供の質と柔軟な対応

- ・ 病状や歯の状態への配慮＝発熱や隔離時も、状態に合わせて「粥」や「きざみ食」、「スプーン」など臨機応変に変更
- ・ 適時、適温の追求＝適温での提供と、丁寧な盛り付け・配膳による質の向上
- ・ 基本の充実＝出汁を効かせた薄味の健康食や、温度管理の徹底による食習慣の定着

③ 食を通じた楽しみとコミュニケーション

- ・ 特別メニューの実施＝誕生月のリクエスト、鍋料理、ティータイムの手作り菓子提供
- ・ 外食の楽しみ＝新年会での握り寿司、行事での食の工夫
- ・ 交流の促進＝行事食を通じて、利用者間および職員との親睦を深化

④ 連携体制と生活支援

- ・ 委託業者との密な連携＝給食会議等を通じた衛生管理の徹底と、食の充実による利用者の心の安定
- ・ 多職種連携による支援＝健康状態や生活習慣を把握し、健康に働き続けられるよう多方面からサポート

【課題】

① 自発性と健康管理の両立

利用者の自発性を尊重し、自主的な行動を促した結果、見えない場所での間食が増加し、顕著な体重増加が見られる利用者が現れた

② 職員の対応と自身で考える力のバランス

利用者の自立心の育成を重視しつつ、健康維持のために「職員が支援すべき範囲」と「本人が考えるべき範囲」の適切なバランスについて、具体的な解決策を検討する必要がある

③ 義歯・歯周病の増加

利用者の高齢化により、歯科の治療期間が延び、義歯・歯周病の方が増加傾向にある

ウ. 余暇活動支援

【概要】

コロナ禍以降、情勢をみながら余暇活動を徐々に再開し、今年度は春に関西万博への外出を行い、秋の外出では、るり溪でのバーベキューを行った。また、洛西寮まつり、新年会に加え、月に1度レクリハ（レクリエーションとリハビリテーションの要素が合わさった活動）を開催した。前年度から課題になっていたボランティアとの学習機会の点字や社会などは、ボランティアの高齢化などもあり、次年度への課題となった。

【成果】

① 春と秋の行事開催

一生に何度も行ける機会ではないため、利用者の希望を聞き取り、春の行事として万博に行くことにした。秋の行事はるり溪への日帰り旅行で、屋外バーベキューを実施した

② 洛西寮まつり

前年に続き気候の良い10月に地域との交流を意識した企画で開催され、地域住民に好評であった

③ レクリハ

月に一度、企画内容は職員が準備し、ヨガ、阿波踊り、ゴールボール、ウォーキング、卓球バレーを開催し、運動不足の解消と気分転換・リラックスができた

【課題】

- ① ボランティアとの連携による点字や社会などの学習機会の再開
- ② レクリハ企画の充実による運動不足解消と気分のリフレッシュ

エ. ボランティア支援サービス

【概要】

今年度はボランティアが9名新規登録し、3名辞められたので、6名増加し総勢37名となった。作業ボランティアは大幅に増え、平均すると一日に1人以上の作業お手伝いをいただいたことになる。

【成果】

① 朗読ボランティア

コロナ禍でも途絶えることなく、工夫しながら活動を継続していただいている朗読ボランティアは、今年度も変わらず毎週月曜日の「こんな話あんな話」、毎週土曜日の対面朗読を、実施していただき、七夕会とクリスマス会では朗読会を行った

② 外出やまつりなどの行事

春と秋の外出行事、七夕会、クリスマス会、洛西寮まつりでも、昨年同様たくさんのご協力を得ることができた

③ 土日祝等の利用者の外出サポート

対応していただけるボランティアは、昨年度の5名から7名に、個別外出は10回から18回に増加した

【課題】

① 個別外出サポートボランティア

個別外出に対応していただけるボランティアを増やすことは、利用者の移動の権利を守る上で喫緊の課題

② 読み書きサービス

利用者や地域の視覚障害者の読み書き困難を支援する体制を整える必要がある

【実績】

① ボランティア登録者数 37 名

② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	301
朗読	465
選択科目	0
手引き	18

行事	78
合計	862

2. らくさい作業所（就労継続支援B型）

ア. 作業支援

【概要】

年度初めにタイミングよく工業用ミシンの寄贈があったことで、計画していたミシン作業の拡充をスムーズにスタートさせることが出来た。それ以外の作業も積極的に受注に対応し、箱作業の単価も上がったことで売り上げアップへと繋がった。並行して利用者のスキルアップにも取り組んだ。

また、前年度より職員の退職や異動・長期療養もあったが、今年度は体制がしっかりとしたことで安定して運営していくことが出来た。

【成果】

- ① ミシン作業拡充への取り組み
- ② 利用者のスキルアップ
- ③ 体制の確立による安定した運営
- ④ 積極的な受注対応
- ⑤ 工賃アップ

【課題】

- ① 全体の底上げ（スキルアップ）
- ② 点訳者・ミシン縫製者育成
- ③ 柔軟な組織体制
- ④ さらなる工賃アップ

【実績】

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、京都市部局情報誌、盲導犬協会情報誌
封入発送作業	市民しんぶん拡大版
ミシン縫製	下請：和装用袋、袋物、カバンの込み入れ作業、おみくじ・お守り等 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋・マスク等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し

② 売上（単位：円）

科目	2025 年度
点字	10,551,732
自主製品	332,930
縫製下請	526,965
箱作業	1,200,595
数珠加工	70,680
自販機	215,483
合計	12,898,385

③ 工賃

年度	2025	2024
工賃支払総額（円）①	8,210,674	7,739,683
延人数（人）②	7,462	7,648
平均年間利用日数（日）③	236	238
平均利用者数（人）②÷③	31.7	32.2
年間開所月数（月）④	12	12
平均工賃月額（円） ①÷（②÷③）÷④	21,584	20,030
延時間数（時間）⑤	33,311	34,332
平均工賃時間額（円）①÷⑤	246	225

イ．生活支援

【概要】

集団生活に困難さを抱える利用者の対応に追われた1年だった。

特に触法障害・ADL が著しく低下した利用者の対応が主だったが、その中で「万引きをしなくなったこと」や「ADL が低下した利用者が落ちついて過ごせるようになったこと」は成果である。

加えて、生活担当を変更したことで利用者・職員共にプラスに働いた部分も多々あった。
また、利用者のサークル活動も開始した。

【成果】

- ① 触法障害利用者の変化
- ② ADL が低下した利用者の落ち着きと臨機応変な対応
- ③ 生活担当変更による好循環の創出
- ④ サークル活動の開始

【課題】

- ① 集団生活に困難さを抱える利用者への対応・傾聴
- ② 傾聴力向上と作業支援とのバランス
- ③ 館内・居室環境の衛生保持
- ④ 余暇活動の充実

【実績】

プログラム	内容
買い物支援	近隣の商店や桂川イオンへの買い物同行や計画の支援
シーツ交換	必要な利用者に対して、寝具を整え、衛生管理支援
一斉居室支援	居室の衛生保持のための清掃支援と整理整頓の支援

B. 三療事業所**1. らくさい治療院（就労継続支援 B 型）****【概要】**

体調不良による施術人数制限、怪我で長期離脱していたスタッフの復帰、両親の介護でシフトが安定しない等、このような状況の中、年間患者数約 6,300 件強をキープできた年度となった。

【成果】

- ① 実績は前年を割ることになったが、歴代 5 番目の実績となった
- ② 就労 A 型時に最賃保証していたスタッフの実績が前年を超えた
- ③ 開所して 12 年、不動の実績上位者 3 名の壁を超えたスタッフが 1 名
- ④ この 1 年でスタッフの振り返る力が促進された

【課題】

- ① 個々のペースに沿った施術技術の向上を図る
- ② 個々の特徴を活かした接遇力向上を図る
- ③ 治療院内外の清掃強化とスタッフの身だしなみの意識化を図る
- ④ 日々の施術が広報であることを意識づけする

【実績】

- ① 年間患者数＝6,325 名（前年比 94.7％）月平均 527.1 名
- ② 年間売上＝23,749,800 円（前年比 97.2％）
- ③ 平均工賃 就労 B 型

年度	2025	2024（7カ月間）
工賃支払総額（円）①	21,374,820	12,615,120
延人数（人）②	2,418	1,325
平均年間利用日数（日）③	240	138
平均利用者数（人）②÷③	10.1	9.6
年間開所月数（月）④	12	7
平均工賃月額（円） ①÷（②÷③）÷④	176,360	187,725
延時間数（時間）⑤	16,124	9,044
平均工賃時間額（円）①÷⑤	1,326	1,395

④ 年度別月平均個別指名数の推移（％）

年度	S氏	Y氏	N氏	O氏	K氏	T氏	K氏	S氏	I氏	H氏	U氏
2025	69.3	67.1	42.9	51.4	38.7	36.0	35.4	19.2	21.0	16.4	0.4
2024	71.3	70.6	55.3	48.3	43.0	30.7	36.3	32.3	20.3	15.7	
2023	75.3	66.8	56.8	50.0	41.0	31.6	38.3	28.0	17.1	15.7	

2. 美鈴治療院（就労継続支援 B 型）

【概要】

利用者 1 名が一般就労を実現できた。また新たに利用者 1 名の入所者がありスムーズな運営を維持できた

【成果】

- ① 利用者の目標が達成し、1 名一般就労することができた
- ② 関係機関との連携により利用者数を維持することができた
- ③ 利用者全員が地域のイベントに参加することによりコミュニケーション力や積極性・行動力の向上、自己成長につながった
- ④ 利用者個々のニーズに合わせた支援を行うことができた

【課題】

- ① 施術技術向上、傾聴力向上の為にモニタリング・スキルチェック強化する
- ② 利用者のプロとしての意識向上、業務に対する責任感を高めるよう支援する
- ③ 良好な人間関係の構築のため、相互理解が深まる環境作りをする
- ④ 利用者のニーズ多様化に対応した支援を行う

【実績】

- ① 年間患者数＝3,901 名（前年比 96.3％）

② 年間売上 = 14,531,400 円（前年比 99.2%）

③ 平均工賃（4 月～3 月）

年度	2025	2024
工賃支払総額（円）①	13,078,260	13,177,800
延人数（人）②	2,264	2,348
平均年間利用日数（日）③	238	235
平均利用者数（人）②÷③	9.5	9.9
年間開所月数（月）④	12	12
平均工賃月額（円） ①÷（②÷③）÷④	114,722	110,924
延時間数（時間）⑤	17,187	17,851
平均工賃時間額（円）①÷⑤	761	738

※三療事業所合算平均工賃（らくさい治療院＋美鈴治療院）

年度	2025	2024（7 カ月）
工賃支払総額（円）①	34,453,080	25,792,920
延人数（人）②	4,682	3,673
平均年間利用日数（日）③	239	187
平均利用者数（人）②÷③	19.6	19.6
年間開所月数（月）④	12	9.5
平均工賃月額（円） ①÷（②÷③）÷④	146,484	138,523
延時間数（時間）⑤	33,311	26,895
時給（円）①÷⑤	1,034	959

C. 障害者相談支援事業所 スマイルサポート （指定特定相談支援事業）

【概要】

- ① 障害福祉サービスの支給決定が円滑に行われるようにサポートした
- ② 洛西寮利用者へピアカウンセリングを実施した

【成果】

- ① 事務手続きの正確化
- ② 新しいサービスへの円滑利用の促進
- ③ ピアカウンセリングの定期実施（月 2 回）

【課題】

- ① 制度の知識や利用手続きへの理解
- ② 利用者の希望や必要性に応じたカウンセリング優先順位付け

【実績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4 月	2	2
5 月	3	0
6 月	2	3
7 月	2	0
8 月	3	2
9 月	1	7
10 月	2	4
11 月	5	2
12 月	2	3
1 月	3	1
2 月	3	0
3 月	6	5
合計	29 名	34 名

・ カウンセリング・・・97 名（延べ人数）

D. 点字出版施設 紫野点字社

【概要】

京都市の広報物や会議資料等を中心に、視覚障害関係団体等の点字出版物を作成した。

【成果】

- ① らくさい作業所との連携による、京都市点字広報物の出版
- ② 京都市の少部数（会議資料等）への迅速な対応
- ③ 京視協支部の点字資料の作成を安価に迅速に対応
- ④ 視覚障害者関係事業所の点字広報を作成

【課題】

- ① 点訳者の養成・育成
- ② 納品までのタイトな日程の注文への対応
- ③ PDF データのテキスト化への対応
- ④ らくさい作業所点字部門との連携・体制の強化

【実績】

年度	2025 実績（枚）	2024 実績（枚）	前年比実績（％）
製版	4,669	4,521	103.27%
塩ビ版印刷	279,164	282,925	98.67%
パソコン製版	952	1,184	80.41%
パソコン印刷	7,476	11,551	64.72%
点字名刺、はがき	3,070	1,075	285.58%
点字シール	5,835	1,782	327.44%
発送	1,714	2,072	82.72%
墨字印刷	21,579	27,518	78.42%
墨字入力	0	1	0.00%

E. 京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業

【概要】

- ① 京都市内を除く京都府京丹波町以南の在住者への訪問相談活動を実施した。
- ② 相談者は高齢者の割合が高くケースも複雑化することが目立つ。各関係機関と連携して支援した。

【成果】

- ① 福祉制度の情報提供、視覚便利機器の活用支援
- ② 地域活動や社会参加に向けた支援
- ③ 引き継ぎに伴う、新旧相談員間での相談環境づくり

【課題】

- ① 相談員のスキルアップによる相談対応の改善
- ② 関係機関との連携強化

【実績】

- ① 過去 5 年間の相談延べ件数比較

2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
1251	1090	1068	931	743

- ② 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
9 月 30 日	木津川市	木津川市東部交流会館	10：30～15：30
11 月 17 日	南丹市	南丹広域振興局園部庁舎	10：30～15：30
1 月 27 日	大山崎町	大山崎町ふるさとセンター	10：30～15：30
2 月 17 日	久御山町	久御山町コンベンションホール	10：30～15：30

F. 法人

1. 事務局

【成果】

- ① 役員改選による新理事長就任と事業運営推進の体制の確立
- ② 常勤職員兼務役員の給与と役員報酬の整理と規定の改正
- ③ コンプライアンスに則した適正な事業運営
- ④ クレジットカード導入による時代に即した支払処理と通販効率の上昇と省力化
- ⑤ 「処遇改善加算」上位加算取得による職員処遇の向上
- ⑥ 事業課題の明確化による、事業推進の方向性の精査
- ⑦ 職員研修による支援力向上
- ⑧ 虐待防止・身体拘束等の障害者権利擁護の徹底
- ⑨ 業務継続計画（感染症・自然災害）の周知と研修と訓練の実施
- ⑩ 洛西寮施設利用者確保のための広報（基幹相談支援センターへDM）
- ⑪ 後継者育成を考慮した人事異動

《広報活動》

- ・ホームページによる情報発信
- ・YouTubeによる事業活動の見える化
- ・SNSによる洛西寮の活動発信（Instagram・X）
- ・チラシ配布（洛西寮広報＝全国基幹相談支援センター800件）
- ・機関誌「楽西（らくさい）」の発行 年2回（8月と1月）

《職員研修》

日程	内容
5月23日	社会福祉施設職員における職業ジレンマと倫理観
7月18日	心の豊かさって何？（ケースワーク会議）
9月19日	障害者虐待防止研修 ～インクルージョンを考える
11月28日	視覚障害の理解と支援資質向上
1月23日	身体拘束適正化研修
2月20日	心の豊かさって何？（ケースワーク会議）

《業務継続計画(BCP 関連)研修・訓練》

日程	内容
5月23日	・食中毒を学ぶ ・嘔吐物の処理訓練
1月23日	・コロナ感染症発生時のゾーニングと防護服の着脱 ・震度6弱の地震が起きたら、皆さんは最初の5分で何をしますか？ 研修とシミュレーション訓練

【課題】

- ① 将来に向けての積立資金の確保
- ② 利用者確保による、障害福祉サービス給付費収入(利用者確保)と財政安定化
- ③ 地域移行推進制度施行に伴う利用者への対応と地域連携
- ④ 洛西寮の施設入所支援のあり方検討（制度の動向を注視）
- ⑤ 洛西寮建物の法令是正箇所の修繕及び老朽化への対応
- ⑥ 法人の将来を担う人材育成

【実績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 就労継続支援 B 型（40名）	2011 年 10 月 1 日 2013 年 4 月 1 日	40 名
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	1982 年 4 月	
京都府視覚障害者訪問相談員 派遣事業	訪問相談事業	1977 年 10 月	
らくさい治療院 美鈴治療院	就労継続支援 B 型	2023 年 10 月 1 日	10 名 10 名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	2014 年 3 月 1 日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	26	2024 年度事業報告並びに決算案 次期役員候補者の選定	理事 7 名 監事 2 名
6	18	理事長の選定	理事 6 名 監事 2 名
9	10	法人クレジットカードの導入	理事 8 名 監事 2 名
12	11	給与規程の管理職手当における役員報酬の見直し	理事 7 名 監事 2 名
3	11	2026 年度事業計画・予算案、キャリアパスの確立	理事 7 名 監事 2 名

・評議員会

月	日	主な内容	出席者数
6	14	2024 年度事業報告並びに決算案 次期役員の選任について	評議員 8 名

・監査会

月	日	主な内容	出席者数
5	21	2024 年度事業報告並びに決算案	理事 3 名 監事 2 名

③ 法人登記事項

・理事長・資産の変更登記（6 月 25 日）

2. 主催行事

洛西寮まつり

【概要】

日時：2025 年 10 月 18 日（土）14:00～17:00

会場：洛西寮（全館）

内容：視覚障害者啓発（ロービジョン）、自主製品販売、後援会、模擬店、遊び、その他イベント

【成果】

生憎の空模様により例年に比べると来場者数は少なかったが、「子ども縁日」をテーマに、射的・ヨーヨー釣り・重さ当て・的当て・白杖体験等を企画し、楽しんでもらえた。

また、利用者の意見を反映したロービジョン体験では、見えにくい眼鏡を使って「お茶くみ」「コイン判別」「名前書き」を体験してもらい、「見えにくさ」への理解に繋げることが出来た。

お客さん参加型のボール回し大会では、利用者チームと対戦してもらい、期待以上の白熱した競争となり、創立 40 周年を記念して実施した豪華抽選会也大いに盛り上がった。

反省点としては、近くの小学校の運動会と日程が重なったこともあり、今後の課題となった。

【課題】

- ① 開催時期・時間の検討
- ② 両治療院利用者のまつり参加への再検討
- ③ 集客への取り組み

【実績】

来場者：約 150 名

協力ボランティア：22 名（登録 21、学生 1）、京都ウェルワイズメンズクラブ 5 名

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、読売光と愛の事業団大阪支部

後援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会

協力：京都ウェルワイズメンズクラブ

3. 共催事業

ア. 第59回白杖安全デー（京都市内）

【概要】

日時：2026年1月17日（日）10時30分～12時00分

2026年2月7日（日）10時30分～12時00分

会場：京都駅（コトチカ広場）・四条駅

内容：・啓発チラシを封入したポケットティッシュを配布

- ・小さな子ども連れに対し、ボードアンケートへの参加を呼びかけ
- ・アンケートに回答した子どもへ点字ブロッククッキーを手渡す
- ・当事者がマイクを使用し、啓発の呼びかけを行う

【成果】

当日は、「白い杖や盲導犬を使用している人を見かけた際の声かけ」や「点字ブロック上に物を置かないこと」等、視覚障害者からの協力依頼を記載したチラシを封入したポケットティッシュを、両駅において各1,000部配布した。

また、京都市交通局のマスコットキャラクター「京ちゃん」の協力を得たことにより、多くの家族連れが足を止める状況が見られた。さらに、子どもでも気軽に参加できるアンケートボードを設置し、点字ブロックの認知向上の契機を創出した。

本啓発活動を通じて、視覚障害者の思いを一般市民に周知し、誰もが安心して移動できる環境づくりの推進に寄与した。

イ. 第51回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概要・成果】

日時：2026年2月28日（土）～ 3月1日（日）午前10時から午後6時

会場：イオンモールKYOTO SAKURA 館1F センターコート

来場者数：約350名（2日間合計）

内容：「点字体験」「誘導（手引き）体験」「ゲーム体験」の3つの体験コーナーを設けた。

その他、盲導犬（PR犬）と触れ合う場や、点字用紙を使ったワークショップを設け、小さなお子様でも楽しめるような工夫を凝らし、より幅広い年齢層の方にも足をとめていただけるようにした。